

# 平成29年度 専門指導員派遣事業アンケート集計結果

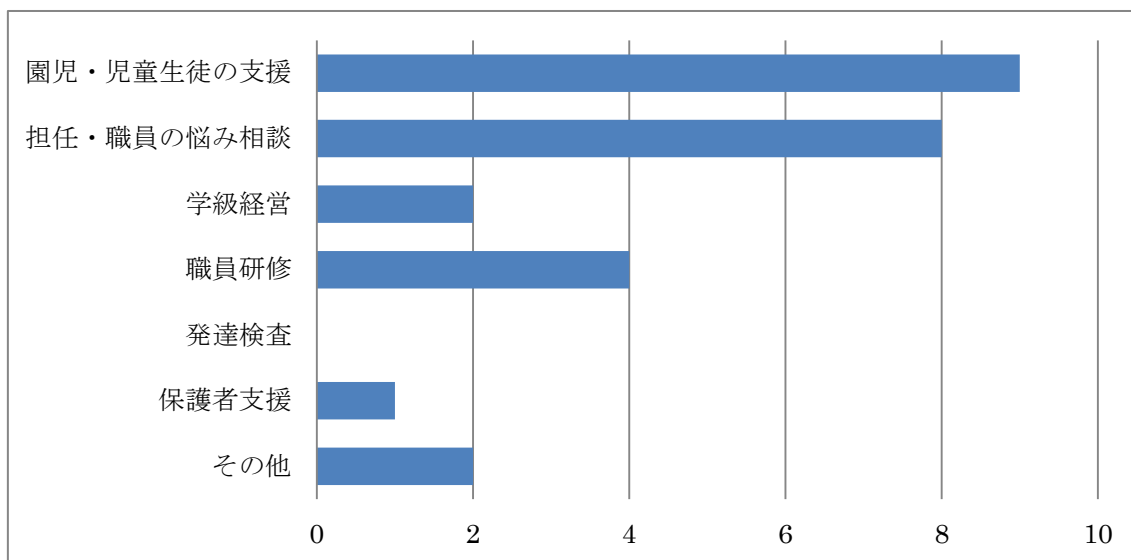
岡山県健康の森学園支援学校

今年度、専門指導員派遣事業を活用された学校園等からご回答いただいたものをまとめました。

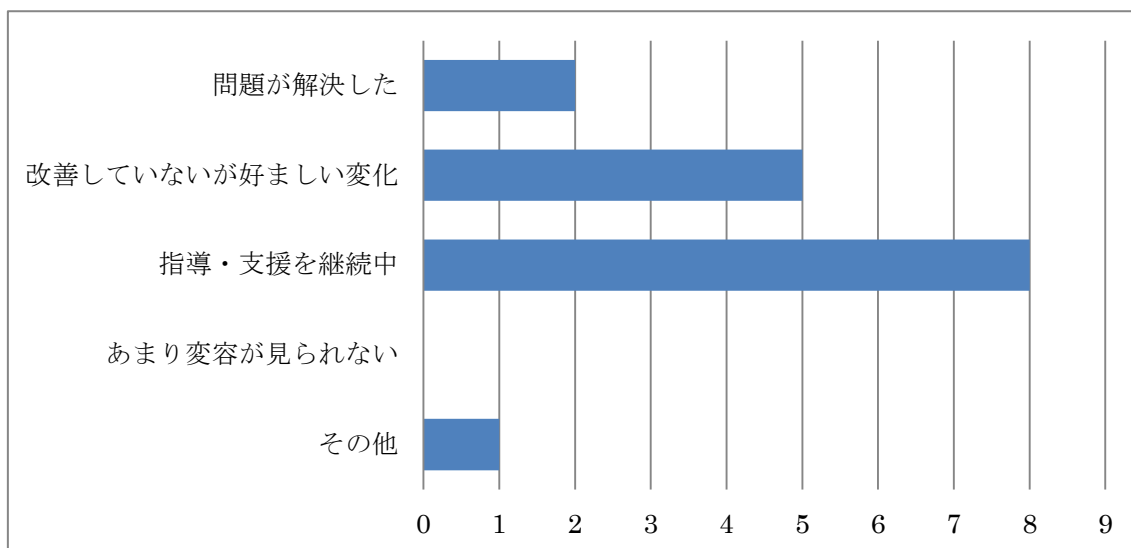
今年度相談件数：21回（12校）

## 1 専門指導員派遣事業の内容についてお答えください。

### (1) 何について相談を依頼しましたか。（複数回答可）



### (2) 本事業活用後の取組で、ケースはどのようになりましたか？



**(3) 専門指導員派遣事業を活用されて、幼児・児童生徒を指導・支援する上でどのような内容が役立ちましたか。ヒントになったことをお書きください。**

**【小学校】**

- 暴言や泣きわめくなどの問題行動があった場合の具体的な対処の仕方についてアドバイスを受けることができた。
- 特別支援を要する児童に関しての具体的な支援や今後起こりうる他の児童とのトラブルを防ぐ方法についての指導を受けることができた。
- 障害の特性を十分理解することで、二次的な障害(不登校、問題行動の顕在化、学業不振など)に対応することができること。
- 今まで「この指導で大丈夫なのか？」と不安に思っていたが、児童の様子を見ていただき、その上で相談したことで、指導が間違っていないことが分かり、よかったです。現在も助言いただいたことを受けて、継続して指導・支援しています。
- 本児童の対応について悩みながらしていたところがあったが、よかった点、改善する点などが分かったこと。
- 疑似体験をさせて頂いたのがよかった。
- 進級に対してのアドバイスと、進路をどのように見通せばよいかということについて教えていただいたことがよかった。
- 当該児童への専門的な見方を聞くことができ、大変参考になった。
- 担任(担当)が1人で抱えることなく、校長のリーダーシップのもと特別支援コーディネーターと協力して、チームとして支援していくこと。
- 児童の言動の見方・捉え方、又は、その対応の仕方。
- 一斉の指示の出し方(特別支援の視点に立った内容が効果的であった)
- 支援を必要とする児童の理解と支援の方法等、児童の様子を見ながら具体的に指導していただいたこと。
- できていることを見逃さずにほめるということ、ほめ方、ほめるタイミングについて教えていただき、児童との関係作りの上で役立った。
- 他の児童のいるところで叱らないということも教えていただき、実行している。
- 「だめ。」と言わず、「こうしたら。」という言い方に変えたらよいと教えていただき、そのように声掛けしたら、児童が素直に受け入れた。
- 参考になる書籍を紹介していただいたり、プリント等の資料をいただいたりしたこと。
- 子どものもつ力だけでなく、周囲との関係性で自信が付いたり、力が付いたりすること。

## 【中学校】

- 「知っていること」→「できそうなこと」を考えることは、支援のスマールステップを設定しやすい。
- 生徒の特徴が分かり、対応をする際、ゆとりをもってできるようになった。
- 不安が解消された。
- 教室環境整備・設置場所の大切さについて
  - ・ 常時クールダウン場所に畳と毛布を置いていたが、それを取り除くことによって、自分の席について授業準備ができるようになった。
  - ・ 個人用の棚を床に直接置かず、台の上に置くことによって、棚の引き出しの開閉を足でなく手で開閉するようになった。
  - ・ 更衣場所に個人用のカゴを設置することにより、脱ぎ散らかしていた衣服をカゴの中に入れるようになった。

## （４）専門指導員派遣事業実施後、校内体制や職員の意識はどのように変わりましたか。

### 【小学校】

- アドバイスを受けたことを校内で共有することで、いろいろなケースでの職員の本児に対する接し方の共有が図られた。
- 特別支援学級での指導や支援学級児童への理解を深めるとともに、通常学級における特別な支援を必要とする児童への指導・支援について共通理解が図れた。
- 支援を必要とする児童に対しての支援や指導が具体的になった。当該児童に対する職員の理解が深まった。
- 今まで不安に思っていたことが解消されて安心しました。自信をもって指導にあたることができるようになりました。
- 校内支援体制の確立が図れた。
  - ・ 支援の必要な児童の実態及び対応についての全職員の共通理解
  - ・ 具体的な指導計画作成に関わる組織の構築(チーム支援)
- 校内委員会の視点が明確になり、方向性が見えてきた。
- よいところを見つけて、伸ばしていこうと思うようになった。
- 視覚支援を多く取り入れるようになった。
- 教職員の意識に、まだ温度差があると感じている。子どもができないのは、どうしてか、できるようにするためにはどのような支援が必要か、どのような支援がうまくいき、反対にうまくいかなかったか、というようなことを語り合える教職員集団でないといけないが、今一步である。そのためにも、個々の教職員の意識改革と指導力の向上が、更に必要だ。

- 危機管理としての対応の構想
  - ・ 事前に様々な可能性を想定し、危機管理の観点から予防的な対応を構築しておくとともに、日常的な情報収集に努める。
- 子どもを見守り、待ったり認めたりすることの大切さを改めて意識するようになった。

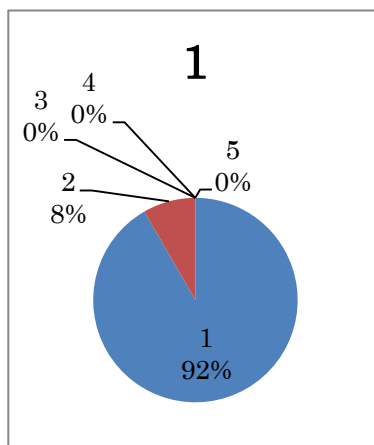
### 【中学校】

- 着眼すべき点について、考え方の転換がスムーズに行えるようになった。また、共通理解を図りやすくなった。
- 専門指導員の助言を学年団で共有し、授業の際の指導に役立てることができた。共通理解のもとで、接する助けとなった。
- 職員会議等で、特別支援学級で取り組んでいることや、指導・助言してもらった点を共通理解することで、協力体制がより強く構築できた。また、授業準備や課題等を口頭だけでなく可視化できるように前面の黒板に書いてもらったり、教室環境を整備したりすることにより、生徒の変容も見られ、可視化の重要性や環境整備の大切さなど改めて感じ、教員の意識も変わった。

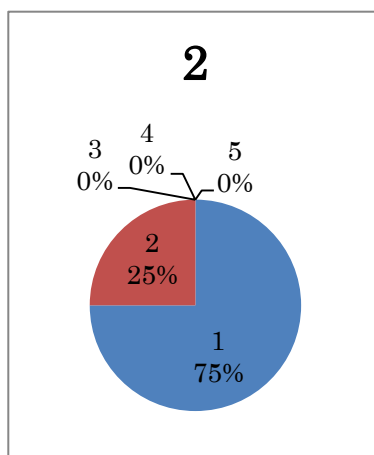
## 2 専門指導員派遣事業を活用されて、(1) から (7) についてどのように感じていますか。あてはまる番号に○をしてください。

- |              |               |           |
|--------------|---------------|-----------|
| 1 とてもあてはまる   | 2 少しあてはまる     | 3 どちらでもない |
| 4 あまりあてはまらない | 5 まったくあてはまらない |           |

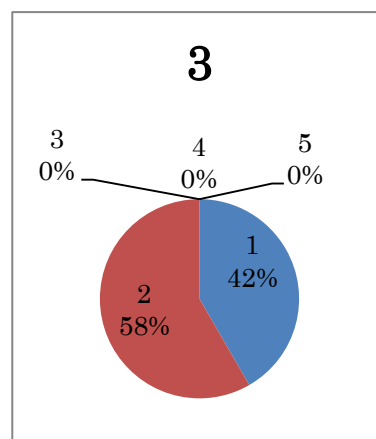
(1) 学校の考え、要望をよく聞いてもらえた



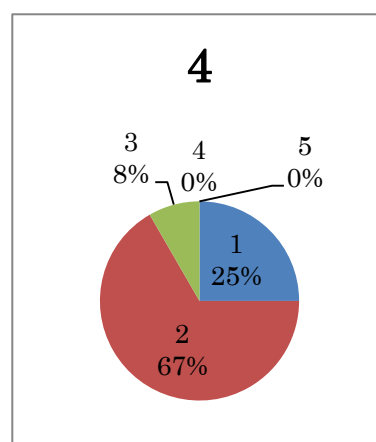
(2) 園児・児童生徒に対する理解が進んだ



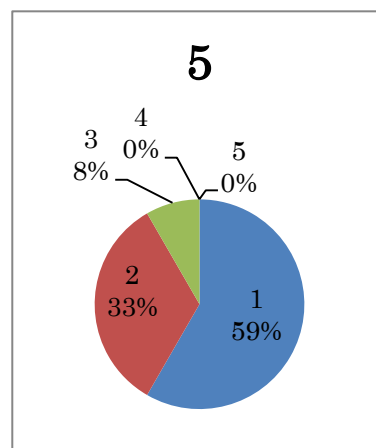
(3) 発達障害などの専門的理解が進んだ



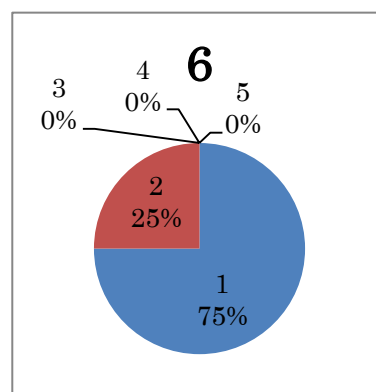
(4) 保護者や子どもに対する理解が進んだ



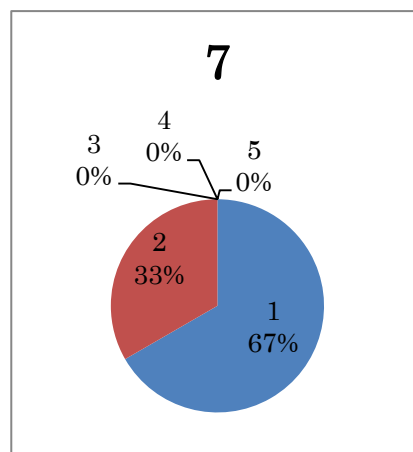
(5) 今後の見通し、展望をもつことができた



(6) 相談を受けてよかった



### (7) またこの事業を活用したいと思う



### 3 専門指導員派遣事業全体を通して、お気づきになったことや、本校に対するご要望等がありましたら、自由にお書きください。

#### 【小学校】

- 日頃の悩みや細かい部分での支援の仕方について、分かりやすくアドバイスを受けることができた。
- 校内研修で、心理的疑似体験プログラムをしていただいた。見え方や聞こえ方、捉え方などの難しさ、そして、それに対する反応が個々に違うことを改めて感じた。
- 教室での指示を精選したり、保護者にとって分かりやすい文書でのお願いの出し方を工夫したりすることも考えなくてはいけないと思った。
- 疑似体験によって、子どもに寄り添える教職員が増えることを切に願っている。
- 一度の申し込みで、複数回指導を受けることができたならよい。継続的な見とりをお願いしたい。
- 対処の仕方を教えていただき大変参考になりました。今後ご指導の程、よろしくお願ひ致します。
- しっかりと児童を観察し、的確なアドバイスをいただきました。継続して指導をお願いしたいと思います。
- 来年度、特別支援学級が異学年構成になることから、教科や自立活動等の指導・支援とともに、学級経営の在り方について相談させていただきたい。
- 研修会の講師の依頼も本事業でできることを知り、活用の幅が広がった。
- 講師の先生の専門性の高さで、通常学級担任や保護者が良い刺激を受けた。

#### 【中学校】

- 本校に来られる前に、事前研修を校内でしていただいたということを知り、大変恐縮しております。親身になっていただき、よい研修ができました。

- 個別の支援が必要な生徒に対する手立てを教員全員で話し合う機会をいただき、ありがたかったと思います。
- 不登校の子どもへの対応など、経験を元にした話が聞けてよかった。4月の初めにワークショップもできて、仲間作りにも役だった。
- 「〇〇ちゃんの事例」のような例があり、より分かりやすかった。